

まもりびと journal

株式会社スナダ石材

〒939-0364

富山県射水市南太閤山9-75

TEL:0766-53-5145



ツテ・コネ・金なしの田舎者が成功するためには？ 実業家・大谷米太郎の軌跡

2020年は東京オリンピックが開催されます。2019年の大河ドラマ「いだてん」は、1964年の東京オリンピックまでの道すじと人間模様が題材でしたが、56年前、オリンピックに向けて建設されたのが「ホテルニューオータニ」です。このホテルの創業者である大谷米太郎は、富山県小矢部市水落の生まれで、生家は「大谷博物館」として有形文化財に登録されています。

米太郎は、明治14年に小作農の両親のもとに生まれますが、貧乏なため教育も十分に受けられず、農業をしながら丁稚奉公に出て家計を助けていました。父親の死後、家の主として家族を養わなければならないものの、果てしなく続く貧乏生活から抜け出すため、一発勝負をかけて上京します。米太郎、31歳。手にはにぎり飯と20銭だけ。手持ちの金はすぐになくなり、保証人もないため、仕事を探すのもひと苦労します。大きな体と人好きする性格を武器に、なんとか日雇い人夫としてスタート。しかし、このままではその日暮らしから抜けられず、同郷の相撲取りを頼って相撲部屋に向かうことに。地元の相撲大会で活躍した米太郎はスカウトされ、力士として再スタートをきります。

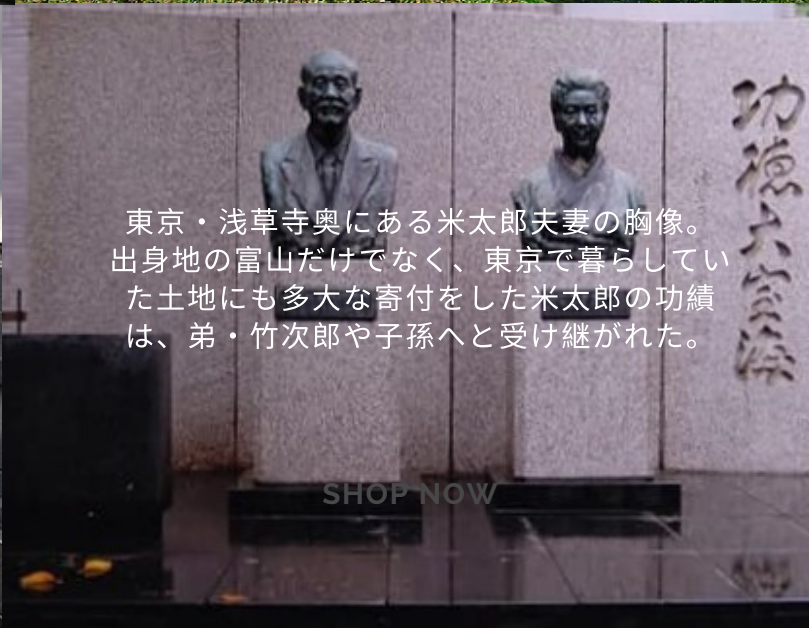


大谷博物館

昭和10年に米太郎により建て直された生家。「アズマダチ」という農家建築様式で当時の暮らしが再現されている。大谷家の経歴が展示された記念室も併設。

入館無料

富山県小矢部市水落35



地元の水落には、大谷家の先祖代々のお墓がある。米太郎の墓は東京に。

東京・浅草寺奥にある米太郎夫妻の胸像。出身地の富山だけでなく、東京で暮らしていた土地にも多大な寄付をした米太郎の功績は、弟・竹次郎や子孫へと受け継がれた。

相撲巡業中に会社見学 鉄鋼王、そしてホテル王へ

相撲巡業をしながら、米太郎はいろんな会社の見学をします。企業側は力士が見学に来るといことで喜んで企業秘密を話し、米太郎は事業のやり方を自然に覚えていきます。指を骨折したことで、力士に見切りをつけた米太郎は、国技館のそばで四股名をつけた酒屋を開きます。子ども時代の酒屋での丁稚奉公の経験が生き、現金取引の成果もあって、その後の事業への**タネ銭**を稼ぐことに成功。会社見学で覚えた鉄鋼圧延用のロールを創る東京ロール製作所を起業。鉄鋼業の需要拡大を見込んでいた米太郎は、その後30種類もの溶接炉をつくり、特許を取得しました。

そんな彼も時代の波に襲われます。関東大震災、太平洋戦争と災害や戦争の被害にあい、工場も被災するという不幸に何度も見舞われます。しかし、すぐに跡地で商売をはじめるのが米太郎流。従業員を被災していない田舎にやり、そこで雑貨を買い付けさせて販売し、また利益を稼ぐ。酒屋も工場も大きく復活させ、特殊鉄鋼製造に着手して大谷重工業をつくり、鉄鋼王と呼ばれるように。日本の自立自営のために工業都市の創設にも関わり、播磨臨海埋立地にも尽力しました。そして、東京へのオリンピック招致が決まった日本。政府からの要望もあり、これまでやったことのないホテル事業へと乗り出すのです。

「タネがなくては、芽もでてくるまい。自分で苦労して作ったタネ銭もなく、親や他人の財産をあてにしている人間に、ろくな人間はいない。**タネ銭**をつくれ。」米太郎が作ったタネ銭は時を経て、育んだ地への恩として多額の寄付金(学校、市役所など)になりました。金への接し方は人へのそれとつながる。そんな彼の生きざまが、あらたな未来の芽につながるのです。